

子宮出身の
すべての人たちへ贈る
感動のドキュメント



両親の不仲、虐待の経験から
親になることに戸惑う夫婦。
出産予定日に我が子を失った夫婦。
子どもを望んだものの
授けられない人生を受け入れた夫婦。
完治しない障害を持つ子を育てる夫婦。
全てが「うまれる」
ストーリーです。



申込みは不要です。当日直接会場へ
お越しください。(先着 100 名)

この映画は、たんなる出産ドキュメンタリーなどではなく、
出産を切り口にした『親子の物語』なのだと思う。
親に、深く、深く、感謝した。

乙武洋匡

(作家)

生きていろいろ腹立つことあるけど、結局、うまれたから
愛する人と出会えたんだ。悲しくない涙がたくさん出ました。

鈴木おさむ

(TBSドラマ『生まれる。』脚本家)

私は子供を産まずに45歳になりました。
でも、それは欠陥ではないよ、と言ってもらえた気がしました。
そう思ったら涙が止まりませんでした。

さかもと未明

(漫画家・タレント)

“僕はただ、両親と仲直りがしたくて、
この映画を作ったのかもしれない”

自分は愛されているんだろうか… 自分は本当にこの両親の子ども
なんだろうか… 物心ついた時から、僕はそう思っていました。

4歳年下の弟が右目が半分開かない状態で産まれてきたことから、
両親は弟の事で精一杯。僕は「親の愛情」というものを、知らず
に育った気がしていました。

自分はなぜうまれてきたのか、何のために生きているのか… 自分
の存在価値がよくわからなくなり、結婚や子どもを持つことに、全く
夢を描けませんでした。

そんなある日。講演会で「赤ちゃんは雲の上で親を選んで生まれて
くる」という胎内記憶の話の話を聞きました。

自分は好きでうまれてきたんじゃないし、子どもは親を選べないと
ずっと思っていた僕は、非科学的でファンタジーな話とは思いつつ、
心から感動したのです。

自分が選んだのかも、と考えると、いまの親子関係は自分にも責任
があるのでは、自分も本当は愛されていたのでは… 長らく抱いて
いた否定的な感情が少しずつ消えていくのを感じました。

「うまれる」ことを映画にしたい! 命の原点に向き合うことで、僕自
身、両親との関係を築き直せるかもしれない……。

それから3年あまり。何十組ものご家族、ご夫婦を取材・撮影さ
せていただきましたが、「うまれる」ことを知れば知るほど、そ
の奥深さと神秘に僕は圧倒されました。

産まれてくること、そして生きること、まさに奇跡の連続。頭では
分かっている命の尊さ、感じる機会ってどのくらいあるのでしょうか?
全身の細胞全部で、映画のメッセージを受け止めていただけたらう
れしいです。

企画・監督・撮影 豪田トモ



ご参加の条件

上映後に大切な人へメッセージ

カードを記入していただきます。

う ま れ る

ナレーション：つるの剛士 企画・監督・撮影：豪田トモ
製作：インディゴ・フィルムズ / 配給・宣伝：マジックアワー
©2010「うまれる」パートナーズLLP
2010/ 日本 / カラー / HD-35mm / 104 分 / ビスタサイズ / DTS STEREO

www.umareru.jp



この事業は「住民税1%町民予算枠制度」
わくわくコラボ事業として採択された事業です。

主催／阿久比町商工会女性部

＜問い合わせ＞

〒470-2212 阿久比町大字卯坂字古見堂4 8
TEL 48-7085 FAX 48-6087